

「伝えたい！」 と感じたら、 まずはサポーター探しを

身近な人に歯周病予防の大切さを伝えたい——。

そんな想いから始まったグッペリ活動。現在その対象はさまざまです。家族や友人にとどまらず、ご近所さんや通っているバーの常連さんへ向けてなど、いたるところで活動が行なわれています。

そこでポイントとなるのが、「この人なら協力を得られそう」という存在。今回は3人のメンバーに、どんな人に声をかけて活動へつながったのかお聞きしました。



大澤佳代子さん (千葉県)

声をかけた人 元アルバイト先の上司

接客はお店の顔！
だから伝えたいと思いました

絶対に歯周病予防を伝えたい！

そう思いはじめに声をかけたのは、以前アルバイトをしていた居酒屋の上司です。きっかけは久しぶりに飲みに行ったとき、前歯が一本抜け落ちたままの従業員がすごく気になったから。接客はお店の顔なので、何とかしなければと思いました。上司はかなり真剣に受け止めてくれましたよ。「実は僕も歯のことは悩んでる。予防って本当に大事だから、ぜひみんなに話してあげて」と、快くOKしてくれたんです。

提供してくれたフォーラムでは、10代から50代とさまざまな年代の方がいました。緊張したけど、「知らないことが知れてよかった」と言ってもらえ安心しましたね。チャンスくれた上司も「ほかのところでやるべきだよ」と背中を押してくれ、今後のモチベーションにつながりました。



亀田真理子さん (山口県)

声をかけた人 息子の担任の先生

子どもたちの歯肉炎を
食い止めたい！

小児患者さんを診るたび、「この歯肉炎を、歯科医院に来る前に予防できないかな」と思っていました。

ピンときたのが、子どもたちにとって身近な学校です。懇談のとき息子の担任の先生にお願いして、クラスの子たちに向けてグッペリ活動をやらせてもらおうと思いました。

ただ、急に話を持ちかけるのは少し不安でしたね。先生一人で、急な決断はできないかもしれないじゃないですか。そこで事前に息子に頼んでおいたんです。

「歯科衛生士のお母さんが、みんなにお口のケアのことを話したいんだって」

そう先生に伝えてねって。おかげで懇談のとき直接お話をするとスムーズに許可が得られましたよ。当日はクラスの子18名にフロスを体験してもらいました。はじめは怖がっていた子が、「痛くなくなかった！」と喜んでくれてひと安心です。



石井香里さん (神奈川県)

声をかけた人 ヨガ教室の先生

忙しいママたちは、
質問できる場所を欲しがっています

ママ友に歯科衛生士だと伝えると、「ここそこばかりに子どもの歯のことを聞かれます。そんな声に、できるだけ多く応えたいと思ったのが活動のきっかけでした。

人を集めるため相談したのは、通っているヨガ教室の先生。すると5人の生徒を自宅に呼んで話をする機会をつくってくれたんです。そのときわかったのは、誰もフロスを使っていないという事実。改めてしっかり広めなければと思いましたね。

そんななか、今度は先生のほうから「ヨガのイベントがあるからそこでもやってみたら？」と言ってくれたんです。私の話を聞いて、予防の大切さを感じたとのことでした。そのお誘いを聞いたとき本心にうれしくて、とても心強かったです。

「一人でも多くの人に伝えたい」

この気持ちがあれば、人の心を動かすことができると感じた体験でした。